

# 1970

2月10日 南極昭和基地にて  
S-160型観測ロケットによる  
観測開始

2月11日 L-4S-5により  
わが国初の人工衛星  
「おおすみ」打上げ

4月24日 中国、初の人工衛星  
「東方紅」打上げ

6月26日 M-11-1TVC燃焼試験  
(能代)

7月15日 気象庁、気象ロケット観測所  
(岩手県三陸町綾里)で  
気象ロケット観測業務開始

9月25日 M-4S-1 打上げ  
※第4段点火以降のシーケンスが  
作動せず、衛星を軌道に  
乗せられなかった

11月19日 東京大学三陸大気球観測所  
起工式



初の国産人工衛星打上げ成功を祝う旗行列



L-4S-5 打上げ



# 1971

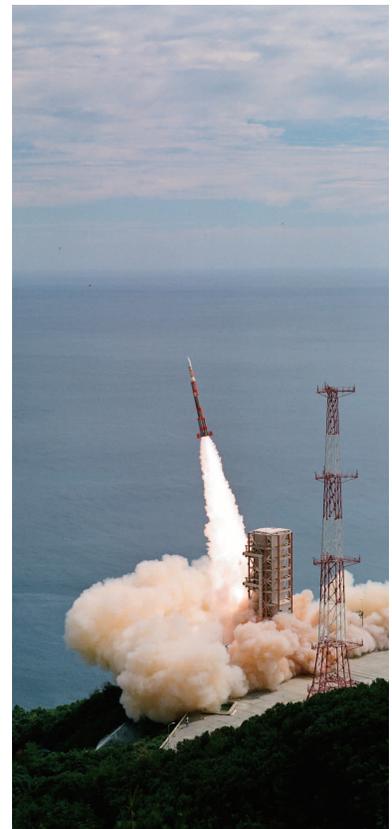
- 
- 2月16日 試験衛星「たんせい」  
(MS-T1)/M-4S-2
- 
- 5月8日、  
13日 インド気球実験2機  
(ハイデラバード)
- 
- 7月30日 三陸大気球観測所開所式
- 
- 8月20日 L-4SC-1姿勢制御テスト機  
ピッチ不整
- 
- 9月3日 三陸大気球観測所で  
大気球実験開始  
B5-37 宇宙塵  
到達高度31km、回収  
※1971年9月～2007年9月  
413機を放球
- 
- 9月28日 科学衛星「しんせい」  
(MS-F2)/M-4S-3
- 
- 11月14日 インド気球実験  
(ハイデラバード)
- 



M-4S-3 ノーズコーンかぶせ



M-4S-2ランチャセット



M-4S-3 打上げ



# 1972

3月29日 M-12-1 燃焼試験(能代)

8月19日 電波観測衛星「でんぱ」  
(REXS)/M-4S-4

10月15日 M-22-1 燃焼試験(能代)

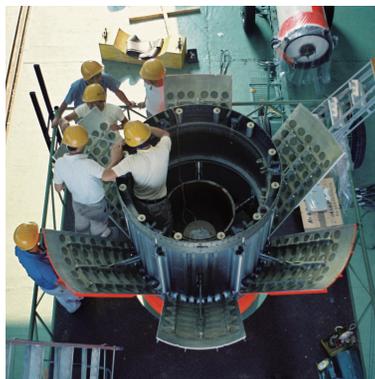
10月25日 宇宙科学資料センター開館



S-210-6 搭載機器組付け



M-4S-4 集合写真



M-4S-4 1/2段接手部チェック



M-4S-4 飛翔 サブブースター分離



# 1973

- 
- 1月28日 L-4SC-2  
第2段SITVC装置の  
制御特性確認
- 
- 7月17日 M-3A-1 燃焼実験(能代)
- 
- 7月27日 M-22TVC-2 燃焼実験  
(能代)
- 
- 9月7日 玉本章夫教授逝去(57歳)
- 



K-9M-41 の搭載機器組付け



ランチャにセットされたK-9M-41



S-210-8、K-9M-41 集合写真



# 1974

2月16日 試験衛星「たんせい2」  
(MS-T2)/M-3C-1

8月20日 L-4SC-3  
スピンドール型CN装置の  
機能試験

10月8日 M-3A-2 燃焼実験(NTC)



管理棟



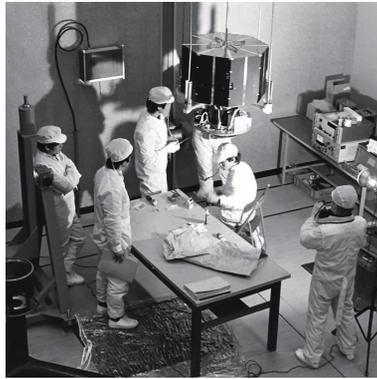
MS-T2の上段モータ組付け



M-3C-1 打上げ



宇宙科学資料センターと美宇橋



MS-T2のチェック



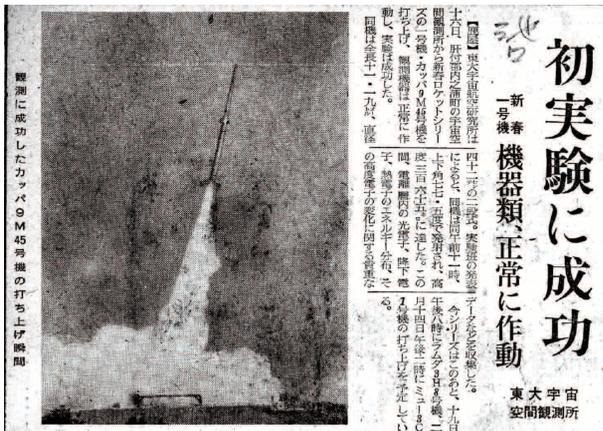
コントロールセンター



資料センター展示



M-3C-1 集合写真



1月17日 南日本新聞



2月17日 南日本新聞

# 1975

1月20日 S-310-1打上げ  
南極向の性能確認試験機  
Yoデスピナ不作動  
最高高度192km

2月24日 太陽観測衛星「たいよう」  
(SRATS)/M-3C-2

8月30日 S-310-2打上げ

10月30日 M-13TVC-1燃焼試験  
(能代)



M-3C-2



整備塔に吊り込まれるM-3C-2の1段目



# 1976

1976 国際磁気圏観測計画  
-1979年 (IMS)

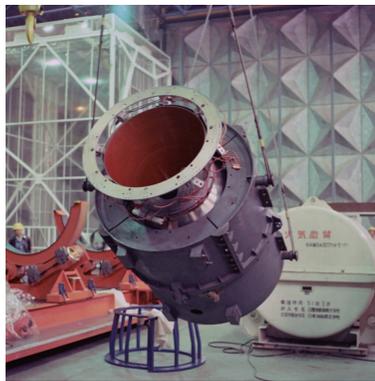
2月4日 M-3C-3/CORSA  
打上げ失敗  
※制御系の故障によって、  
衛星を軌道に乗せられなかった

8月21日 S-310-3打上げ

8月30日 L-4SC-4 第1段TVC、  
SMRCによる制御確認試験



M-3C-3 1/2段接手



M-3C-3 第3段モータの搬入



M-3C-3 ノーズコーンかぶせ



M-3C-3 打上げ

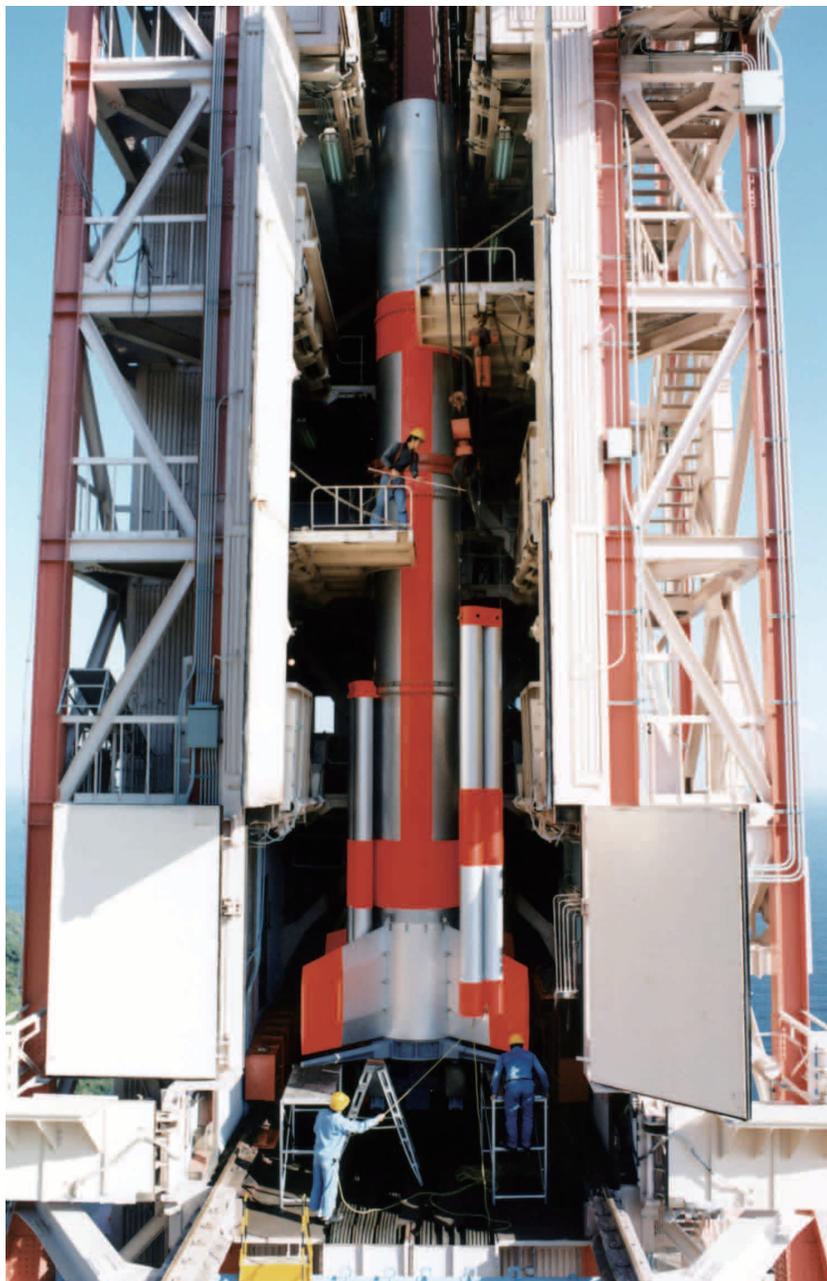


# 1977

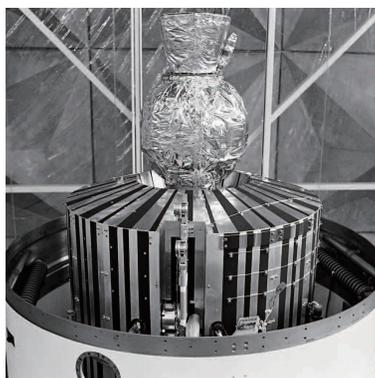
2月19日 試験衛星「たんせい3」  
(MS-T3)/M-3H-1

8月4日 鹿児島宇宙空間観測所開設  
15周年記念  
「おおすみ」記念碑建立

9月21日 S-310-4打上げ



M-3H-1 サブブースター整備塔吊り込み



MS-T3



M-3H-1 打上げ



左から林友直、小田稔



M-3H-1 打上げ成功を祝して



M管制室



2月20日 南日本新聞



MS-T3からの信号を待つ



S-210-12 集合写真



「おおすみ」記念碑除幕式

# 1978

2月4日 オーロラ観測衛星  
「ぎょっこう」  
(EXOS-A)/M-3H-2

9月16日 磁気圏観測衛星「じきけん」  
(EXOS-B)/M-3H-3



M-3H-2 打上げ



M-3H-3 打上げ



# 1979

1979 国際太陽活動極大期観測年  
-1981年 (SMY)

1月19日 S-310-6打上げ

1月31日 S-310-5打上げ

2月21日 X線天文衛星「はくちょう」  
(CORSA-b)/M-3C-4

9月15日 S-310-7打上げ

9月20日 L-4SC-5/M-3S型  
3軸制御テスト  
計器部回収実験

10月16日 M-13TVC-2燃焼試験  
(能代)



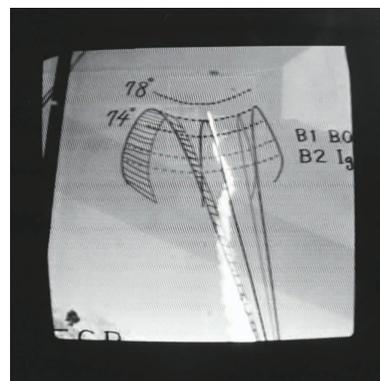
L-4SC-5 器材搬入



M-3C-4 打上げ



CORSA-b、上段モータへ組付け



M-3C-4 飛跡監視ボード



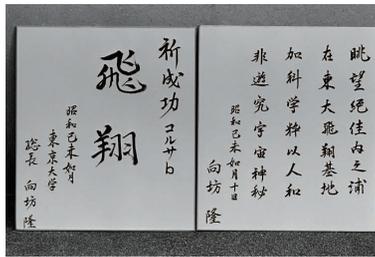
L-4SC-5 計器部回収用パイ



M-3C-4 集合写真



M-3C-4 制御部チェック



東京大学向坊隆総長色紙



各センターの食住を支える女子作業員の皆さん



防じん室の扉を開閉した料さん (左) と東さん

### 2 実験班員が新機器

#### 科学班 静電気防止フィルム

東京大学宇宙科学研究所(宇宙研)の科学班が、宇宙飛行士が着用する宇宙服の静電気防止のために、独自の静電気防止フィルムを開発した。このフィルムは、宇宙服の静電気を防止し、宇宙飛行士の安全を確保する。また、宇宙服の寿命を延ばす効果もある。このフィルムは、宇宙研の科学班が開発したもので、宇宙飛行士の安全を確保するために不可欠なものである。また、宇宙服の寿命を延ばす効果もある。このフィルムは、宇宙研の科学班が開発したもので、宇宙飛行士の安全を確保するために不可欠なものである。

2月22日 読売新聞

# ナゾの中性子星の爆発

## 「はくちよう」が捕える

### 東大 エクス線と光で同時に

#### 宇宙研

【要】東大宇宙研のエクス線観測装置「はくちよう」は、米マサチューセッツ工科大MITと、欧州宇宙機関ESAとの共同観測で、月の天体「中性子星」の表面で起る大爆発現象をエクス線と光で同時に捕えることに成功し、天文学界を驚かせた。六月二十一日「はくちよう」がエクス線観測を捕え、約一秒後、南米チリにある欧州宇宙機関の大型望遠鏡「VLT」が光で観測した。その後、七回、エクス線と光を同時に観測を捕えることに成功した。

二年前、米のエクス線観測装置「SAS」が、地上の宇宙望遠鏡の同時観測に成功している。この現象は三年前に初めて発見された。理論的には古くから考えられていたが、観測その自体を遂げるのが難しかった。中性子星は、爆発現象のため、天文学者の大きな関心を呼んでいた。

共同観測の対象となったのは、観測の中心方向であり、地球から約一万五千里と離れた天体「中性子星」である。六月二十一日「はくちよう」がエクス線観測を捕え、約一秒後、南米チリにある欧州宇宙機関の大型望遠鏡「VLT」が光で観測した。その後、七回、エクス線と光を同時に観測を捕えることに成功した。

「SAS」が、地上の宇宙望遠鏡の同時観測に成功している。この現象は三年前に初めて発見された。理論的には古くから考えられていたが、観測その自体を遂げるのが難しかった。中性子星は、爆発現象のため、天文学者の大きな関心を呼んでいた。

共同観測の対象となったのは、観測の中心方向であり、地球から約一万五千里と離れた天体「中性子星」である。六月二十一日「はくちよう」がエクス線観測を捕え、約一秒後、南米チリにある欧州宇宙機関の大型望遠鏡「VLT」が光で観測した。その後、七回、エクス線と光を同時に観測を捕えることに成功した。

8月10日 南日本新聞